

>>> 2009ハイパーフライトワールドチャンピオンシップ観戦記 <<<

世間では、シルバーウィーク中日の9月21日、7月に出場の決まったチームのうち、今年
は3チーム、4名の間、4頭のワンコが成田空港に集まった。

これからワンコと一緒に13時間の空の旅。不安もいっぱいだが、それ以上にこれから待つ
ている世界が楽しみで、みんなワクワクした良い表情をしていた。

みんなで無事にワンコの検疫も済み、飛行機に搭乗。離陸してからは、ひたすら爆睡するも
の、音楽を聴くもの、本を読むもの、それぞれが思い思いの方法で機内を過ごし、飛行機はア
トランタ国際空港に到着した。

行く前のアトランタのイメージは「抜けるような青空と乾いた空気」。

このイメージは着陸する前のサンダー&ストーム(雷雨の酷いやつ)で見事に裏切られた。天
候不順で着陸するのに30分、着陸してからは落雷による空港機能の一部停止でトラップに着
くまで40分の待ちぼうけをくらった。

考えようによっては、他の空港に到着地が変更にならなかつただけ、ラッキーだと思おうと
一行がポジティブに考え始めた矢先、今度は、日本からオーダーしていったレンタカーでトラ
ブル発生。

今回の運転手を務めた筆者が駐車場に行くのでっかいSUVを頼んだはずが、そこにあった
のは、かわいい乗用車が…。しばしボウ然と立ち尽くしたが、ワンコを抱えた選手たちが待ち
焦がれているだろうと思い直し、拙い会話能力を駆使して、カウンターに苦情を言いに行った。

待つこと15分。結果、「この営業所に頼んだ車種はナイ!おなじ大きさの車を用意したか
ら、それを使ってくれ」ということがわかった。

用意された車も明らかに頼んだ車より小さかったが、筆者の会話能力では、これが限界…。
(参加者の皆さん、本当に申し訳ないです。)

これが海外。これがアメリカ。改めて、ここが日本でないことを思い知らされる。

とりあえず借りた車に乗り、一行をピックアップに行き、出迎えに来てくれたピーター氏の
車に分乗して、空港を離れることにした。

翌日は、ピーター氏の付き添いもあり、順調そのもの。午前中は、獣医師のところに行き、
帰りの分のワンコ健康診断をしてもらい、書類を作成してもらった。午後は、その書類をも
ってUSDA(日本で言う「農水省」)で帰りの分の出国許可をもらった。

大会前で忙しいにもかかわらず、サポートしてくださったピーター氏には、本当に感謝です。

アメリカについて3日目。午前中は、ハイパーフライトの事務所をみんなで社会科見学。バックヤードの倉庫で欲しい商品を探してくれば、この場で売ってくれるとのことで、一同、宝探し状態に(笑)みなさん「オイオイ、そんなに持って帰れるのかよ！」ってくらい日本ではお目にかかれないハイパーのディスクやグッズを買い込んでいらっしゃいました。

午前中いっぱい買い物を楽しんだ一行は、午後になって、いよいよ大会会場のあるテネシー州チャタヌーガに出発しました。

チャタヌーガは、アトランタからフリーウエーをひたすら走って2時間くらい、テネシー川のほとりにあるアメリカの鉄道発祥の地です。開場は、そのテネシー川の近くにある大リーグ「ドジャース」の2A「チャタヌーガ・ルックアウト」のホームスタジアムになります。ベースボールスタジアムを使わせてもらえるなんて、さすがディスクドッグ発祥の国って感じです。

とはいえ、到着時には辺りは暗くなっていたので、会場見学は明日のお楽しみってことで、それぞれチェックインしました。

木曜日は、1日フリーの日。午前中は車で30分くらいのところにあるショッピングモール(…というよりは、規模がショッピングタウン(街)って感じでした)で買い物を楽しみました。

午後もフリーだったんですが、同行していた代表は、会場準備に行くということだったので、みんなも会場の見学も兼ねてついていきました。

2Aのスタジアムとはいえ、そこはベースボールの国「アメリカ」。外野の芝生のフィールドは、フッカフカの緑でこんな所でプレーできるなんて、見学に来ただけなのに夢のようだなあと感動してしまいました。

既にチャタヌーガ入りしている他のチームいたので、昨年参加した選手は、旧交を温めたりして、いよいよ大会の雰囲気が盛り上がってきました。

すみません！異常に長い前ふりでしたが、ここからが大会の様になります。

9月25日(金)

今日は、誰でも参加できるチャンピオンシップ前の最後の予選会「ラストチャンス・オープン・クォリファイ」。

もう出場権を持っているジャパンチームの面々ですが、せっかくアメリカまで行ったので、1つでも多く大会に参加したいということで、全員出場しました。

ここで参加チームを聞いて、一同ビックリ！なんと全部で300チームがエントリーしているとのこと。「終わるのか？あっ！でも野球場だし、暗くなったらナイターか！」なんて心配をしていましたが、リージナルは、1ラウンドで上位6チームしか次のラウンドに進めないのので、ちゃんと終わりました。

まずはExpertクラスに岡田光代Dillチーム、岡田伸美Roseチームが参戦。惜しくも2チームとも2ラウンドに進出することは出来ませんでした。岡田光代Dillチームは参加62チーム中11位と大健闘でした。

続いて、MicroDogクラスに昨年も参加した新井梨絵子Eireチーム、長谷川ひとみUcouleurチームが参戦。

新井梨絵子Eireチームは緊張からか、1ラウンドこそ苦しみました。が、ディスタンスで挽回し、2ラウンドは、落ち着いたプレーで逆転優勝！！

長谷川ひとみUcouleurチームは、落ち着いたプレーで僅差の準優勝！なんとジャパンチームの1・2フィニッシュ！！

最後に Pairs クラスに国内無敵の岡田夫妻Dillチームが参戦。出場前の緊張が嘘のように(笑)よく考えられた素晴らしいレーティンで観客を魅了。ジャッジにも高い評価を受けて、文句なく優勝！筆者、演技中に鳥肌立つくらいカッコ良かったです。

蛇足かもしれませんが、この大会は翌日の本大会に出場するチームがたくさん調整で出場しているので、非常にレベルの大会になっています。そんな中でのジャパンチームの活躍は、うれしい限りです。

夜は、アメリカンな食事に疲れ果てていたもので、インスタントではありましたが、外出せずにお買出しをして、ホテルの部屋でチャーハン、カップめん、ビールで夕飯にしました。

9月26日(土)は、ジャパンチームのエントリーがなかったので、ゆっくり一日大会観戦の予定でしたが、始まって間もなく、突然の空が暗くなり、豪雨と雷!

大会は順延になり、日曜日にすべてやることになりました。アウトドアスポーツだから、仕方ありませんが、アメリカは、天気までスケールが違ふと感じたのは筆者がけではなかったのではないのでしょうか。

急遽、午後の予定がなくなったので、近くの水族館に行った人、地元のスーパーマーケットに買出しに行き、ご飯を食べる人など、思い思いの時間を過ごし、夜は、大会会場の外野スタンドにあるラウンジで大会参加者を集めたパーティーに参加しました。

9月27日(日)いよいよジャパンチームの各メンバーがそれぞれのカテゴリーに参戦しました。オリンピックの精神「参加することに意義がある」とは言いますが、本当にこの場に参加できただけでも、十分意義のあることだと思いましたが、だからといって、緊張しないで済む訳もなく、さすがにみんなガチガチでした。

昨日、途中で中断してしまった Expert クラスから始まりましたが、このクラス、当たり前かもしれませんが、人もワンコもとんでもないことになってます。

技術の高さもさることながら、みんなを楽しくさせてくるようなルーティン、そして何よりプレーヤーとワンコがとっても楽しそうにプレーしているのがとっても印象に残りました。

余談ですが、アメリカのワンコ達はとってもフレンドリイでした。育つ環境、訓練の考え方なんかも根本的に日本と違うのかもかもしれませんが、ワンコにとっても人間にとっても住みやすい社会を感じて、日本ってまだまだなんだなぁとカルチャーショックを受けました。

さてさて、我がジャパンチームですが、緊張と疲れからか、思うようなプレーの出来ない状況の中、やってくれたのが長谷川ひとみ U c o u l e u r チームでした。金曜日同様の落ち着いたプレーで1ラウンドをトップで通過。ディスタンスで伸び悩んだもののファイナルラウンドも全チーム中トップの得点をもらい、準優勝!!!

本当におめでとうございます。昨年はあと一步のところまで表彰台を逃していただけに今回の準優勝は、長谷川ひとみ U c o u l e u r チームにとっても格別のものだったと思われます。

Pairs クラスに出場した岡田夫妻 D i l l チームも金曜日の好調を維持したまま1ラウンドを同率の1位で通過し、これはもしかして狙えるか?周りも思っていましたし、たぶん本人たちも思っていたと思いますが、2ラウンドでまさかの展開があり、結果6位となりました。優勝が目の前をチラついたので、本人たちも周りもちょっと残念がってしまいましたが、6位もとても立派な順位だと思います。本当にお疲れ様でした。

今回、新井梨絵子 E i r e チームは、悔しい思いをしたようですが、今後に向けて闘志を燃やしていましたので、今後の活躍に期待しています。

今回、2009ワールドチャンピオンシップには、アメリカ合衆国、カナダ、ドイツ、ベルギー、ハンガリー、日本と6カ国が集まり、開催されましたが、さまざまな国の方が同じ競技に参加するために集まっている感じは、なんともいえないすばらしい雰囲気でした。そして日本のハイパーフライトジャパンがこの世界と繋がっているんだと思うと身の引き締まる思いと誇らしさも感じられた大会でした。

最後に今回の大会にあたり、大事な大会前にもかかわらず、現地でのジャパンチームのサポートをくださったピーター・ブルーム氏、日本から声援を送ってくださったハイパーフライトジャパンのファンの方々、本当にありがとうございました。

“Road to the World Championship”

来年、あの舞台に立つのは、あなたかも知れません！
みんなで思い思いにディスクドッグを楽しみましょうね！！

P.S. 大会期間3日間に今まで経験したことがないくらいのたくさんのフリースタイルをジャッジされた関口代表も本当にお疲れ様でした。

ハイパーフライトジャパン
角田琢磨